

知財業界 50 年、 発明くんの回想録

発明くんが知財業界にお世話になったのが 1972 年である。
本年で 50 年を迎えた。発明くんが、これまで発信してきた
「知財改革」に関する能書きを「知財業界 50 年、発明くんの
回想録」で、整理しながら断捨離することにした。

この回想録は、知財業界で、お世話になった発明くん 50 年
の歴史と日本アイアールの社史を重ね合わせながら、多くの人
との出会いと助けで“なんとか 50 年やって来られた”という感
謝の気持ちを忘れないために書き留めたものである。また性懲
りもなく「知財改革」についての相変わらずの能書きを垂れて
いるが、お読み頂ける方がいれば嬉しい。1970 年代以降、知
財業界の変わり様を、知ることも無駄ではないと思う。取り敢
えず、IPMA のホームページへ保管して置くことにした。

(2023年1月21日 発明くん)

目次

第一章 知財 50 年、発明くんの知財年表

日本アイアールって、どんな会社.

第2章 知財業界は、面白くも、苦しくもある

00.高度経済成長期を体験

01.1972 年、知財業界に足を踏み入れる

02.1972 年代に、発明くんが見た知財業界の景色

03.「情報機材部」の特許データから派生した商品サービス

04.自分の営業ノルマを日本アイアールで賄う

05.「特許公報複写サービス」で、なんとか食つなく.

06.日本アイアール複写センターの設立

07.苦し紛れで、自分が作った会社へ転出

08.初めて出した新商品、特許出願管理ソフト「MASYS-PA」

09.「知的財産活用研究所」を設立

10.「中国知的財産」の関連事業を始める

第3章 知財業界から学んだ「身のほど経営」

00.世の中変われば、何もかもが変わる

01.「パトリス」民事再生法の適用を申請

02.日本アイアール社のビジネスモデルが崩壊

03.座して待つより、活路を見出す

04.知財部門の働き方が変わる、仕事が変わる

05.デジタルを使いこなし、アナログを鍛える

06.身の丈を超えないで、身のほどで生きる

第4章 知財のグローバル化で、どうする日本の知財業界

はじめに: 経営資源である「情報」と、どう向き合うか

00. 「報」に「情」が絡んで、真の「情報」となる

01. 失われた「インテリジェンス能力」を復活させる

02. 「知財経営」で役立つ、「IP ランドスケープ」づくりに挑戦する

03. 「知財経営」を推進できる「知財人材」を育成する

04. 世界で通用する、戦える強い特許明細書を作る

05. 技術者への知財教育のやり方を変える

06. 研究開発部門の「知的基盤」構築を急ぐ

07. あとがき: (1) & (2)

